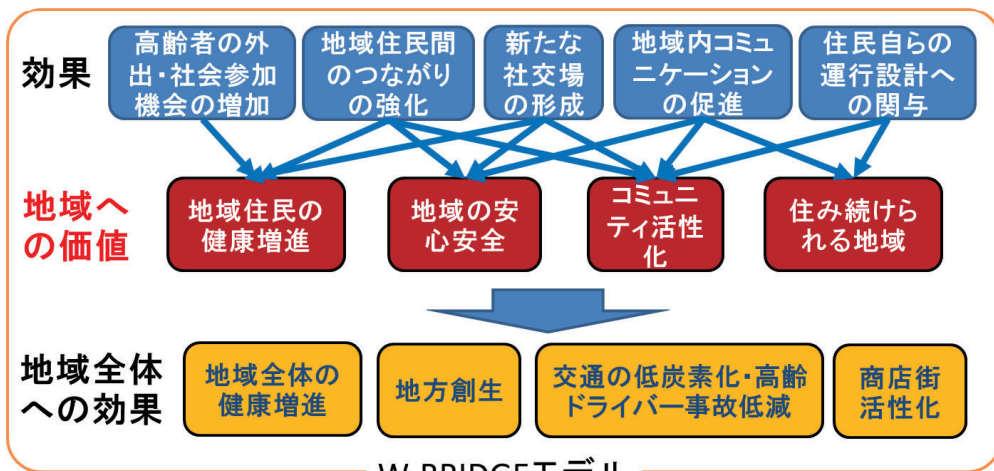


地域コミュニティサイズの交通に着目した条件不利地域の公共交通維持モデルの構築

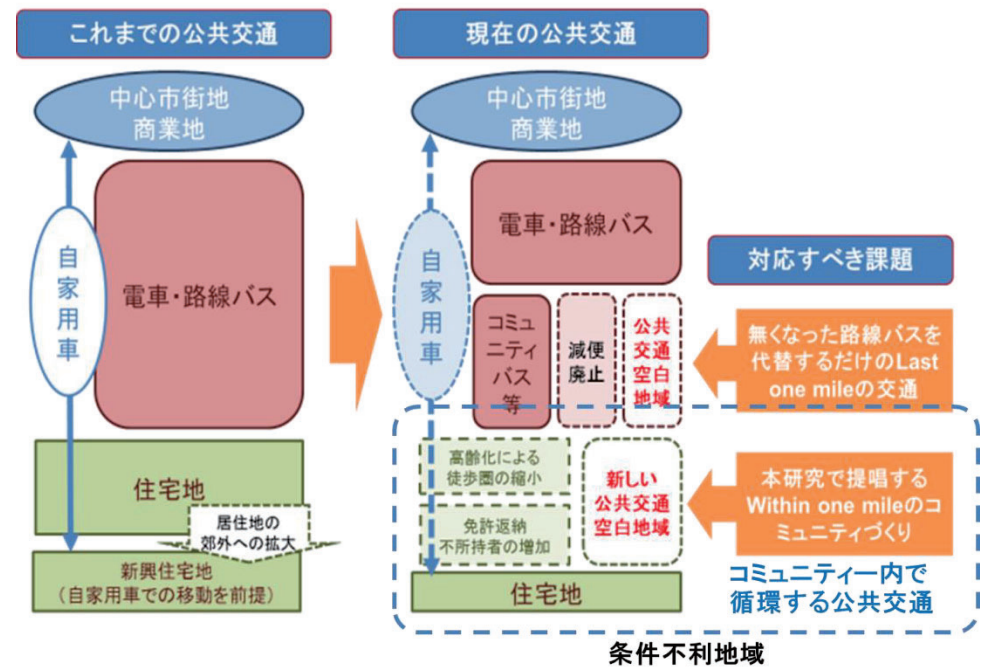
群馬大学 天谷賢児 東京家政学院大学 江川賢一
早稲田大学 井原雄人 明治安田健康開発財団 塙 智史 (株)桐生再生 登丸貴之

条件不利地域の公共交通モデル構築の新しい視点

- これまでの地方自治体主導型から住民主体型の公共交通モデルへの転換
- 交通政策ではなく、地域づくりとしての交通モデルの視点
- 移動手段の提供ではなく地域への価値の提供



現在の公共交通と条件不利地域



群馬県桐生市 低速電動バスを用いた暮らしの足の運行 (地域の街づくり会社)

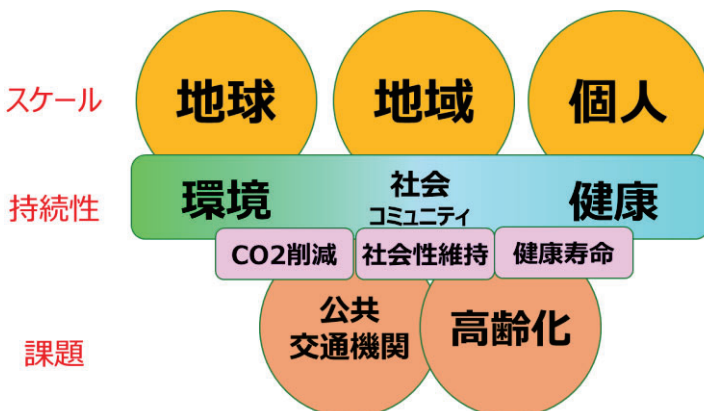
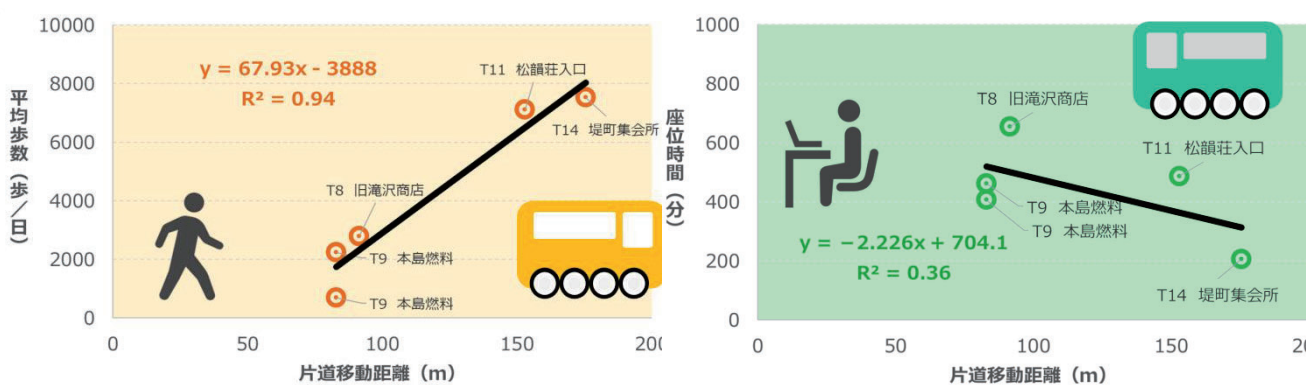
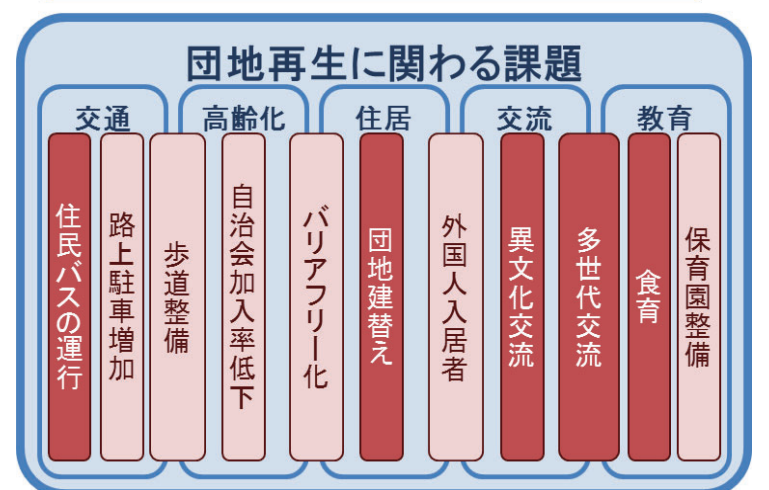
愛知県瀬戸市 住民バス (自治会による運行)



運行主体となるNPO法人の設立

交通課題の解決が、他の地域課題の解決に展開

未来の菱野団地をみんなでつくる会設立



地域コミュニティサイズの交通が、移動手段だけではない様々な生活の価値を生み出す例が、少しずつ見えてきた。今後、事例を増やし新しい価値を生み出す機構や要因、効果などを分析する。

一人ひとりの健康は、地域の健康課題を解決するカギ